

生活支援技術Ⅱ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 自立に向けた生活空間としての「生活の場」「暮らし」について学び考えることができる。
2. 居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることが整備されていることを知る。
3. 快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とともに協働して取り組むことの必要性を理解できる。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

馬場：介護福祉士として病院勤務経験・在宅支援勤務経験、介護福祉士養成校教員 他

| 週 | 授 業 の 内 容 |
|----|---|
| 1 | 居住環境整備の意義と目的 |
| 2 | 生活空間と介護①（居場所とアイデンティティ、生活の場） |
| 3 | 生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障） |
| 4 | 居住環境のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント） |
| 5 | 居住環境のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント） |
| 6 | 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫① |
| 7 | 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫② |
| 8 | 安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化） |
| 9 | 安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他） |
| 10 | 施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化） |
| 11 | 施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他） |
| 12 | 居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備） |
| 13 | 居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備） |
| 14 | 他の職種の役割と協働 |
| 15 | 生活の場とは、何か 学期末振り返り |

【履修上の注意事項】

事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分）

事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）

【評価方法】

期末試験80% 課題提出10% 講義における積極性10%

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』中央法規 最新版

【参考文献】

講義中に適宜提示する。